

GTEC CBT

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する連絡協議会

GTEC CBT 試験概要説明

平成27年3月17日

株式会社ベネッセコーポレーション
学校本部
高校事業部

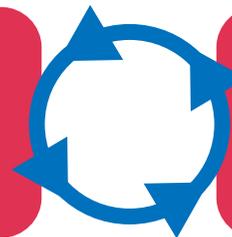
1 GTEC CBT の開発について

ベネッセグループの英語事業で培ったノウハウと実績を活かし開発。
2014年8月2日にリリース。

GTEC CBT

Global Test of English Communication
Computer Based Testing

世界最大の語学学校
「Berlitz」
で培ったノウハウと実績



スコア型検定 高校生受験者数No.1
「GTEC for STUDENTS」
で培ったノウハウと実績

1878年創業
世界75カ国, 563拠点
12,000社での導入実績

年間受験者 約**70**万人
(文系/理系問わず学校で全員受験が主)

2002年には世界初の
CBT型・英語4技能検定
GTEC (社会人版) を開発

平成26年度 文部科学省
「英語力調査事業」の受託

2 GTEC CBT の特徴

GTEC CBT の5つの特徴

- ① 高校生が受験しやすい4技能検定（47都道府県実施，適切な価格・時間）
- ② 大学入試への活用ができる厳密な実施・採点体制
- ③ 高校生のアカデミックな英語力を弁別する適切な難易度
- ④ 学習指導要領をベースに「リアル・タスク・Can-Do」を追求した問題
- ⑤ 学校・エリアの先進的な英語教育支援による知見を活かした内容

GTEC CBT 大学入試活用大学

東京大学 東京海洋大学 千葉大学 九州大学 大分大学 長崎大学
首都大学東京 北九州市立大学 共愛学園前橋国際大学 麗澤大学
亜細亜大学 学習院大学 杏林大学 昭和女子大学 創価大学 玉川大学
立教大学 中京大学 関西大学 関西学院大学 同志社女子大学

※2015年2月末現在

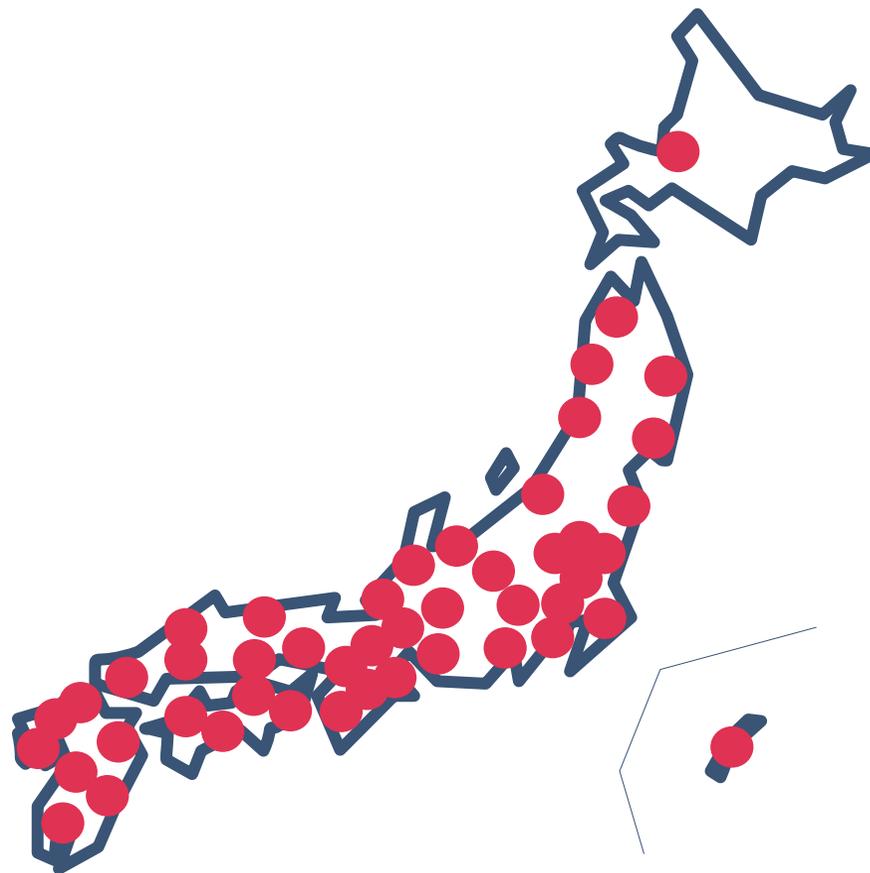
3 高校生の受験のしやすさ ~受験機会の公平性~

「いかなる地域（エリア）・環境」の高校生においても、
公平に受験機会を得られるような実施体制。

全国 47 都道府県・年 3 回の実施
※2016年度は受験回増加予定

受験料は 9,720 円
(消費税込)

受験時間は最大 175 分
※コンピュータ形式のため受験者によって異なる



4 大学入試への活用 ~4技能・スコア型検定~

大学生活におけるアカデミックな英語コミュニケーション能力を測定。
各技能を**均等バランス**で評価し、4技能の**英語運用力をスコア化**。

4 技能合計 1,400点

Listening 0~350点

Speaking 0~350点

Reading 0~350点

Writing 0~350点

GTEC CBT Score Report

ID: GT0000001
BENESSE HANAKO
Date of Birth: 1997/01/01



Test Date: 2014/08/02

	Listening	Reading	Speaking	Writing	TOTAL
Score	215	270	260	300	1045
Grade	5	7	6	7	

Skills	Your Performance
Listening	日常会話を理解することはできています。英語のネイティブ・スピーカーがはっきりとした発音で話をすれば、おおよその内容を理解できます。
Reading	英語のネイティブ・スピーカー向けのテキスト（小説やインターネットのホームページなど）を読んで、辞書がなくても内容をほぼ理解することができます。
Speaking	国際政治や社会問題など、世界のニュースで取り上げられるような議題について英語でスピーチを行い、質問にも英語で答えることができます。
Writing	国際政治や社会問題など、世界のニュースで取り上げられるような話題についての発表や討論を聞いてその内容をまとめ、自分の意見を書くことができます。

The score report is provided for personal use. The score report will be sent to institutions you wish to apply to when the institutions make a request for it. This document is presented in color. If you make a photocopy of the score report, the word "COPY" will appear on the face of the photocopy.

<Information about scores>

The score report is valid for 2 years after the test date. Once the score expires, it will be removed from the database.

The following scaled scores are reported for GTEC CBT:

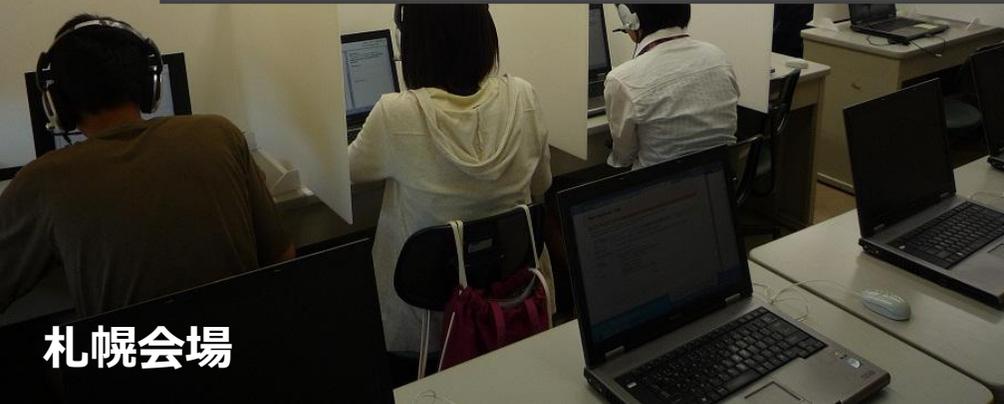
Listening: 0-350, Reading: 0-350, Writing: 0-350, Speaking: 0-350, Total: 0-1400

*Note: For the Listening and Reading sections, scores will not be reported if fewer than half of the questions are answered.

Benesse®

5 大学入試への活用 ~厳密な実施体制~

CBT (Computer Based Testing) による全国一斉実施。
本人確認や不正防止等, 厳密な実施運営を行う。



札幌会場



仙台会場



東京会場



京都会場



大阪会場

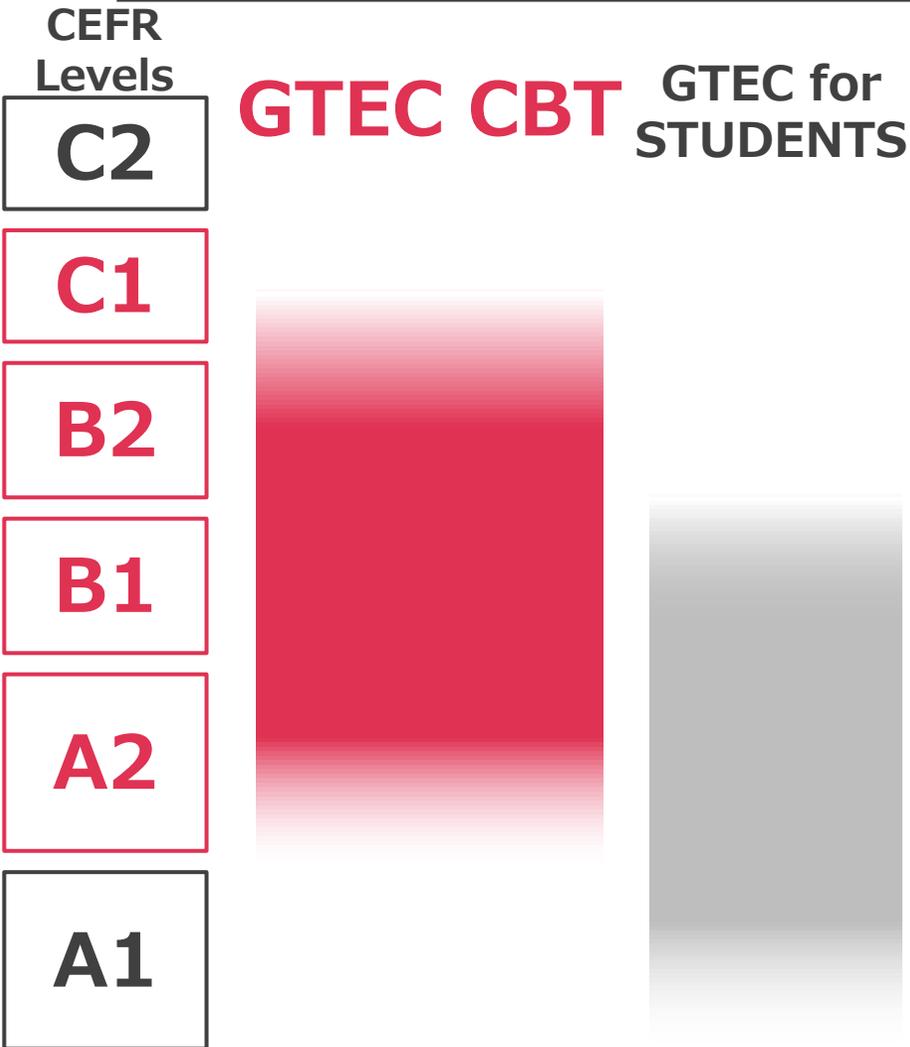
6 大学入試への活用 ~厳密な採点~

Speaking と Writing でも厳密な採点を実施（英語話者の専門採点官）。
受験者1名の解答について、複数名で採点を行い正確性を担保する。

測定技能	問題数	試験時間	解答方法
Listening	約40問	約35分	クリック形式による選択
Speaking	7問	約20分	音声録音による解答 <u>※採点は複数名</u>
Reading	約40問	約55分	クリック形式による選択
Writing	6問	約65分	キーボード入力による解答 <u>※採点は複数名</u>

7 出題難易度 (Global Scale) ~CEFRレベルとの参照~

GTEC CBTは, CEFR「C1~A2」レベルまでを測定することが可能。
 ※GTEC for STUDENTSと比較し高いレベルまで測定



必要語彙数	指導要領の範囲外の語彙も一部含む
語彙サイズ	CEFRレベル別の語彙 ○ B1まで約3,000語以上 ○ C1まで約5,000語以上 ※ネイティブレベルは8,000語以上
目標言語 使用領域 (Target Language Use)	CEFRで規定されているレベルごとの言語使用場面 ○ Aレベル：大学の日常生活場面 …大学生が経験する場面 など ○ Bレベル：アカデミックな場面 …大学の講義 など

8 出題難易度（弁別性） ~大学入試結果との関連性~

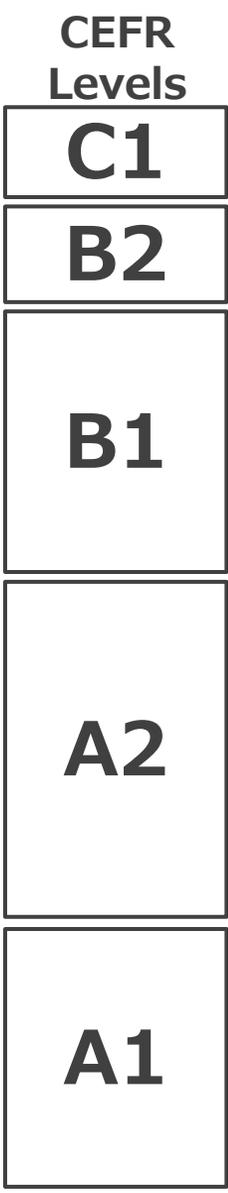
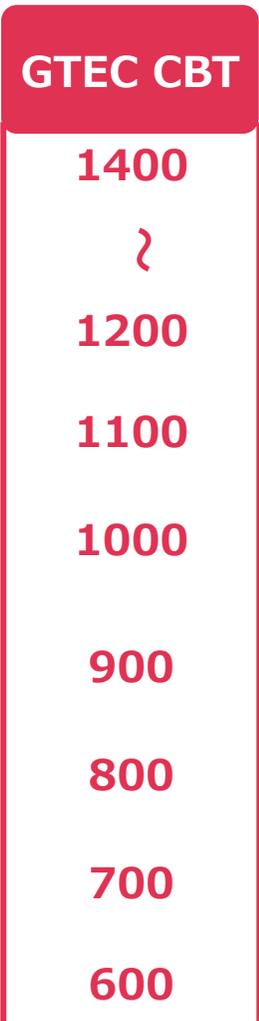
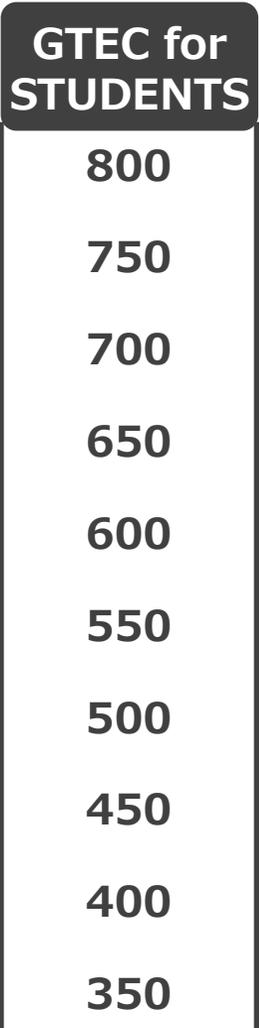
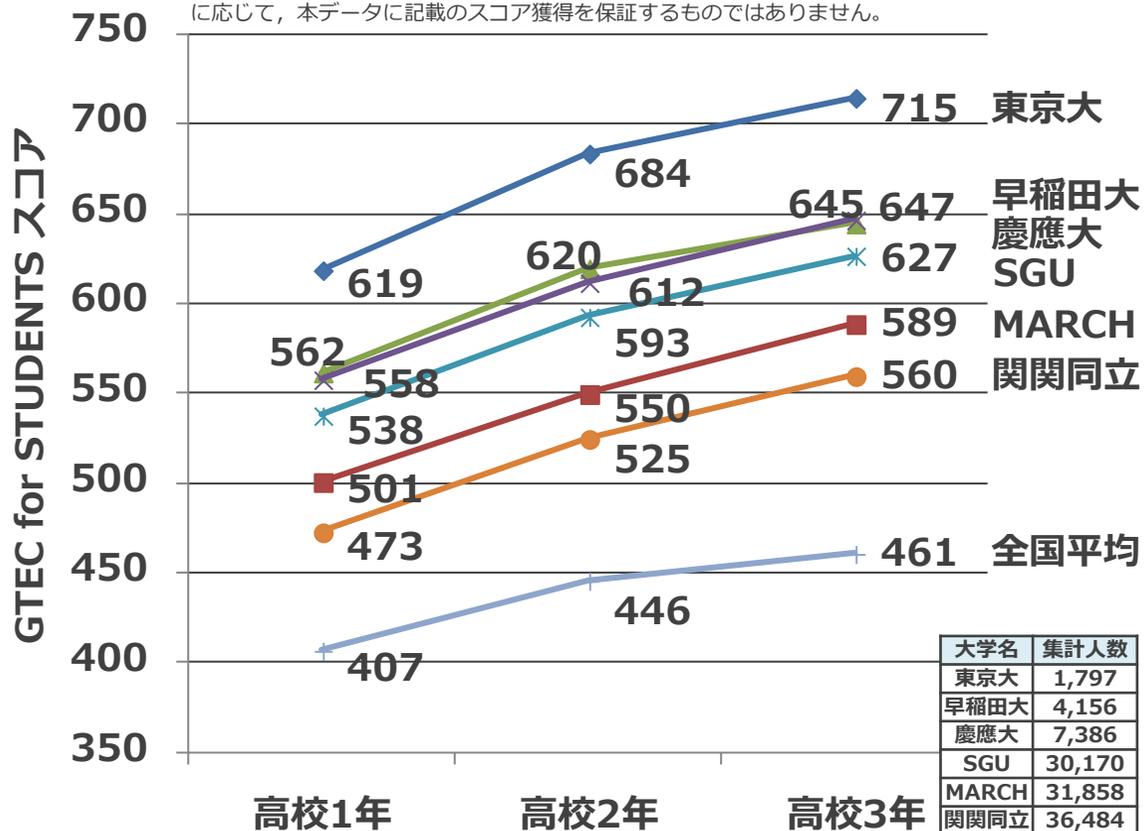
GTEC CBTは, CEFR「C1~A2」レベル

までを測定することが可能。

※高校3年生の全国平均はA1レベルの上位

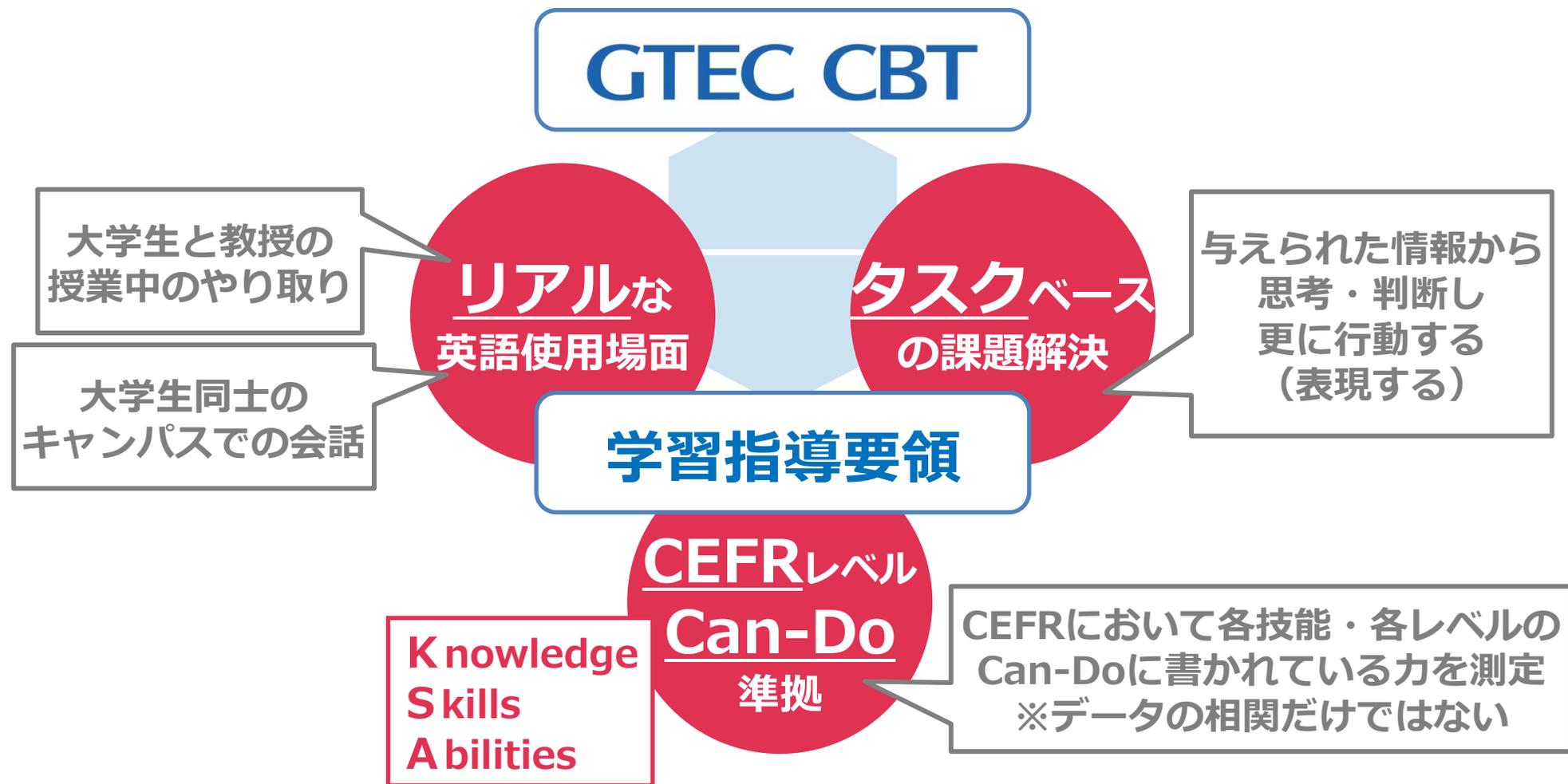
※難関大合格者の平均はA2レベルの上位

■算出根拠
 GTECの数値は, 2012年度から2014年度までの各大学合格者のスコアの平均値
 ■本データはあくまでGTEC受験・目標設定にあたっての目安であり, GTECのスコアに応じて, 本データに記載のスコア獲得を保証するものではありません。



9 出題内容 ~学習指導要領を満たす三位一体~

学習指導要領が求める言語活動（語彙・表現etc）がベースとなる。
「CEFR Can-Doに準拠し、大学での英語使用場面での、課題解決型の出題」



10 出題内容 ~学習指導要領との関係~

学習指導要領が求める語彙・表現と合わせて、「話す・聞く・書く・読む」について関連性を持たせています。

学習指導要領に基づいていること

第3章 英語に関する各科目に共通する内容等

1 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせて活用する。

ここでは、英語に関する各科目において言語活動を行う際の参考として、「言語の使用場面」及び「言語の働き」の具体例がそれぞれ示されている。

コミュニケーションにおいて、言語は常に具体的な場面で、具体的な働きを果たすために使用され、言葉の意味は、その場の状況や前後の文脈によって決まる場合が多い。したがって、授業においてコミュニケーション能力の育成を図るためには、言語の使用場面と働きを明らかにし、具体的な文脈を想定した上で指導に当たることが重要である。

言語の使用場面は、今回の改訂で、中学校における指導内容との連携を考慮に入れ、

- a 特有の表現がよく使われる場面
- b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面
- c 多様な手段を通じて情報などを得る場面

11 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細①)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第1章 総説 第2節 外国語科の目標</p> <hr/> <p>③ 外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養うこと。</p> <p>③の「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする」ことができることは、<u>外国語の音声や文字を使って実際にコミュニケーションを図る能力であり、情報や考えなどを受け手として理解するとともに、送り手として伝える双方向のコミュニケーション能力を意味する。</u>「的確に理解」するとは、場面や状況、背景、相手の表情などを踏まえて、話し手や書き手の伝えたいことを把握することを意味している。また、「適切に伝える」とは、場面や状況、背景、相手の反応などを踏まえて、自分が伝えたいことを伝えることを意味している。</p>	<p>○Writingの「Eメール作成問題」</p> <p>「情報を受け手として理解する」 …広告から情報を読み取る力を問うている</p> <p>「考えを受け手として理解する」 …相手の質問に回答するタスクでその力を問うている</p> <p>「送り手として伝える双方向コミュニケーション力」 …広告からの情報をもとに、友人に誘いのメールを送ったり、広告主（主催者）に対してイベントの詳細について質問するメールを送るタスクでこの力を問うている。</p> <p>○Speakingの「情報伝達および照会問題」</p> <p>「情報を受け手として理解する」 …場所についての情報を理解する力を問うている</p> <p>「考えを受け手として理解する」 「送り手として伝える双方向コミュニケーション力」 …留守番電話に残されたメッセージから相手の要求を理解し、それに対して自身の考えを情報をもとに回答する。</p> <p>…状況・情報を踏まえて、自身（話し手）の伝えたいこと・聞きたいことを伝える力を問うている。</p>

12 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細②)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第2節 コミュニケーション英語 I 2.内容</p> <hr/> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p><u>ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</u></p> <p><u>イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</u></p> <p><u>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</u></p>	<p>○Listeningの「英文を聞いて、全体の概要および要点を把握する問題」 ある事柄についてのアナウンスを聞き、そのアナウンス自体が何について発信しているかを理解する力（概要把握力）、また、アナウンスに含まれる様々な情報の中から自分にとって必要な情報を逃さずに聞きとる力を問うている。</p> <p>○Readingの「英文を素早く読んで、全体の概要および要点を把握する問題」 Eメールを読み、このメールの主旨が何であることを把握する力を問う出題もある。</p> <p>○Speakingの「会話応答・他者の質問に対して即座に応答する問題」 簡単な発話を聞いて質問に対して自身の意見を述べる問題が出題されており、「話し合ったり意見の交換をしたりする」力を問うている。</p>

13 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細③)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第2節 コミュニケーション英語 I 2.内容</p> <hr/> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p><u>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</u></p>	<p>○Writingの「項目記入・与えられた英文と状況設定を読み、条件に合った内容を書く問題」 指導要領に示されているように、「主題を決め、様々な種類の文章を書く」ことを意識し、状況に合った長さ・適した表現で文章を書く力を問うている。</p>

14 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細④)~

高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編	GTEC CBT
<p>第2章 外国語科の各科目 第3節 コミュニケーション英語Ⅱ 2.内容</p> <p>.....</p> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p><u>ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</u></p> <p><u>イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</u></p> <p><u>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</u></p>	<p>○Listeningの「英文を聞いて、全体の概要および要点を把握する問題」 ある事柄についてのアナウンスを聞き、そのアナウンス自体が何について発信しているかを理解する力（概要把握力）、また、アナウンスに含まれる様々な情報の中から自分にとって必要な情報を逃さずに聞き取る力を問うている。</p> <p>○Readingの「英文を素早く読んで、全体の概要および要点を把握する問題」「目的に合わせて、英文の主旨や詳細情報を読み取る問題」 Webページや告知物から、自分に必要な情報を素早く検索し把握する力を問う出題がある。〈速読〉 説明、評論文などを読み、その文章の内容に関する質問に答える出題で精読力を問う出題がある。〈精読〉</p> <p>○Speakingの「意見展開・他者の質問に対して即座に応答する問題」 他の学生からの質問に対して自身の意見を述べる問題が出題されており、「話し合うなどして結論をまとめる」力を問うている。</p>

15 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細⑤)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第3節 コミュニケーション英語Ⅱ 2.内容</p> <hr/> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p><u>工 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</u></p>	<p>○Writingの「意見展開・統計データなどに対して、自分の意見やその意見の背景となる理由などを書く問題+与えられたトピックに対して、他者の考えなどを取り入れながら意見を展開する問題」</p> <p>「事実やそれに対する意見や考えを分かりやすく相手に説明する力」を測る。また、Compare to your experienceと指示しており、自身の経験を具体的に挙げ、論理展開を深める力を問うている。</p>

16 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細⑥)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第5節 英語表現 I 2.内容</p> <hr/> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p><u>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</u></p> <p><u>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</u></p> <p><u>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</u></p>	<p>○Speakingの「会話応答・他者の質問に対して即座に応答する問題」 簡単な発話を聞いて質問に対して自身の意見を述べる問題が出題されており、「話し合ったり意見の交換をしたりする」力を問うている。</p> <p>○Writingの「項目記入・与えられた英文と状況設定を読み、条件にあった内容を書く問題」 指導要領に示されているように、「主題を決め、様々な種類の文章を書く」ことを意識し、状況に合った長さ・適した表現で文章を書く力を問うている。</p>

17 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細⑦)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第5節 英語表現 I 2.内容</p> <p>.....</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p><u>エ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。</u></p>	<p>○Writingの「ある立場の人たちの意見が与えられおり、それらのうちいくつかを利用(引用)しながら自身の意見を展開する問題」</p> <p>指導要領に示されているように、「そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理」して「自分の考えをまとめる」というのは、大学で論文を書くときに必要な力であり、その力を問うている。</p>

18 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細⑧)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第6節 英語表現Ⅱ 2.内容</p> <hr/> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う</p> <p><u>ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。</u></p> <p><u>イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。</u></p> <p><u>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。</u></p> <p><u>エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。</u></p>	<p>○Speakingの「会話応答・他者の質問に対して即座に応答する問題」 簡単な発話を聞いて質問に対して自身の意見を述べる問題が出題されており、「話し合ったり意見の交換をしたりする」力を問うている。</p> <p>○Speakingの「図表などから得た情報を整理して説明する問題や、自ら質問する問題」 図表（広告や地図）を比較してどちらが良いかを説明したり、質問を考えたりする内容。論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を問うている。</p> <p>○Speakingの「意見展開・他者の質問に対して即座に応答する問題」 他の学生からの質問に対して自身の意見を述べる問題が出題されており、「話し合うなどして結論をまとめる」力を問うている。設問文に「Use your personal knowledge and experience to support your answer.」とあり、指導要領に示されている「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる」力を問うている。</p>

19 出題内容 ~学習指導要領との関係(詳細⑨)~

<p>高等学校 学習指導要領 外国語・英語編 第1部 外国語編</p>	<p>GTEC CBT</p>
<p>第2章 外国語科の各科目 第6節 英語表現Ⅱ 2.内容</p> <p>.....</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p><u>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。</u></p>	<p>○Writingの「意見展開・統計データなどに対して、自分の意見やその意見の背景となる理由などを書く問題+与えられたトピックに対して、他者の考えなどを取り入れながら意見を展開する問題」</p> <p>「事実やグラフに表されるような統計データに対する意見や考えを分かりやすく相手に説明する力」を測る。また、Compare to your experienceと指示しており、自身の経験を具体的に挙げ、論理展開を深める力を問うている。</p> <p>更に「ある立場の人たちの意見が与えられおり、それらのうちいくつかを利用（引用）しながら自身の意見を展開する問題」では、指導要領で示されているように、「そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理」して「自分の考えをまとめる」というのは、大学で論文を書くときに必要な力であるため、その力を問うている。</p>

20 Listening 問題構成

学生生活での会話や講義からの出題で、課題解決に必要な情報を「聞く力」を測定

大学の講義や学生同士の会話など、学生生活でよく出合う場面設定の出題により、実践的なコミュニケーション力を測定。聞き取った内容をもとにタスクに取り組む、課題解決型の出題。

場面設定	出題内容	問題数	試験時間
大学で経験するような講義や学生生活の場面	<ul style="list-style-type: none"> ○英文を聞いて、全体の概要および要点を把握する問題 ○与えられたタスクを行うために必要な情報を聞き取る問題 ○会話や講義の内容の論点を把握する問題 ○話された内容から話し手の意図や話し手との関係性を理解する問題 	約40問	約35分

21 Listening 問題例 ~リアル × タスク × CEFR~

リアル × タスク

〈アカデミックなトピックそして状況に則した出題〉

2人の学生が自分達で行ったリサーチプロジェクトについての話をし、それについて教授が学生たちが理解できているかどうか確認を取っているという設定で、アカデミックな場所でアカデミックな内容が理解できるかを把握する問題。

CEFR Can-Do

CEFR B1 レベル

⇒ごく身近なテーマと内容で、プレゼンテーションが簡潔で明確な構成を持っているならば、自分の専門の範囲で講義や話を理解できる。

この能力に焦点をあて、学生が必要とする、話されている内容の主旨、詳細の情報を理解する能力を測定している。

思考力

判断力

表現力

※受信技能により

22 Listening 問題例 ~CEFR B1 レベル~

放送英文

You are in an English language class. Two students are giving a presentation on their research.

問題

In class, the professor asks you several questions about the presentation.

What was the purpose of the project?

- To practice writing to native speakers.
- To invite university students to a party.
- To learn new useful phrases.
- To study use of polite language.

Why did the presenters decide to contact students in separate emails?

- To hide the purpose of the research.
- To get better answers from the students.
- To give the students time to plan events.
- To show the professor the first emails.

A: I am going to talk about what we did and then Ahmed will tell you about our conclusions. So, we wanted to know about when Americans, that is native speakers of English, use polite language and when they do not. And we decided that getting students to write invitations for different situations would be the best way to find out.

So first we had to decide exactly what we mean by polite language, to be specific, in invitations. For example, using words like “please” is polite language. Another sign of polite language is using statements like “I hope” and “I wish”.

(中略)

Now I will describe our method for collecting data. We asked students, only native speakers though, in the dining hall if we could email them our questions and 58 students said yes. So we wanted to have two different situations, one where we thought students would use polite language and one where we thought they would not. So we sent students two emails, one on Monday then one on Friday so they would not know the purpose of our research. And the first email...it said, “Imagine that you want to invite a professor to come to an event. What would you write?” And then the students sent us their letters that they would send to a professor. Then the second email was the same except we asked them how they would invite a friend to lunch. We collected their responses, their emails.

(後略)

23 Speaking 問題構成

会話応答力から自分の意見を述べる力まで幅広く「話す力」を測定

学生生活で英語を使用する場面を想定した、バリエーションのある出題が中心。スピーキング力を構成するInteraction（やりとり）とProduction（発表）の両方を測定。

パート		出題内容	問題数	試験時間	採点基準
1	会話応答問題 Listening and responding	質問に対して即座にかつ適切に 応答する問題	1題 小問6問	2分	○質問の意図に沿って、適切な 応答ができているか
2	情報伝達および照 会問題 Delivering and asking for information	Webサイトなどから得た情報 を整理して説明する問題や、 自ら質問する問題	3問	6分	○内容に基づいて、相手に伝わる ような描写説明、問いかけが できているか
3	意見展開問題 Expressing your opinion	○与えられたトピックに対し て、自分の考えや経験に基づ いて意見を述べる問題 ○他者の質問に対して即座に 応答する問題	3問	12分	○自分の意見が述べられているか ○自分の意見をサポートする理由 が添えられているか ○流ちょうさ

24 Speaking 問題例 ~リアル × タスク × CEFR~

リアル × タスク

〈身近でかつアカデミックなトピックについて自分の意見を述べる出題〉

大学教授が英語学習者は英語の発音を良くするよう励むべきかという質問をし、それについて学生が意見を言うという設定で、まず3分準備・3分話す。発話の後、クラスメートからトピックに関連する質問を受け、準備なしで流ちょうに返答することができるかという問題

CEFR Can-Do

CEFR B2 レベル

- ⇒事項を補足しながら関連事例を挙げ、主張を強化、展開することができる。
 - ⇒一連の質問に、ある程度流ちょうに、自然に対応ができる。話を聞く、あるいは話をする際に聴衆にも自分にも余分な負荷をかけることはない。
- この能力に焦点をあて、学生がそれらができるか測定している。

思考力

判断力

表現力

25 Speaking 問題例 ~CEFR B2 レベル~

発話と応答

You are taking an English class. The professor is giving a lecture on the role of English in the 21st century.

Your professor asks you to present an argument on the following topic:

Some people believe that the learners of English should work hard on their pronunciation.

Other people believe that correct pronunciation is not crucial for successful communication.

Which position do you support?

- Argue one of these positions.
 - Provide at least two pieces of supporting evidence.
 - Use your personal knowledge and experience to provide support for your answer.
- (Three minutes to prepare an answer.)



Your classmate has a question.

- In your opinion, what is the best way to inspire students to learn English?

26 Reading 問題構成

学生生活で遭遇する情報や、講義内容などの出題で「読む力」を測定

学生生活や講義で実際に遭遇する幅広い媒体・情報から出題し、目的に合わせて概要や要点を把握する力を測定。アカデミックな文章において、著者の意図を理解して言外の意味を読み取る出題もある。

場面設定	出題内容	問題数	試験時間
大学で経験するような講義や学生生活の場面	<ul style="list-style-type: none"> ○英文を素早く読んで、全体の概要および要点を把握する問題 ○目的に合わせて、英文の主旨や詳細情報を読み取る問題 ○英文を書いたり話したりするために必要な情報を読み取る問題 ○筆者の意図を推察する問題 ○さまざまな意見の中から筆者の意見を特定する問題 	約40問	約55分

27 Reading 問題例 ~リアル × タスク × CEFR~

リアル × タスク

〈実際のアカデミックな場面で遭遇するような設定の出題〉

大学のクラスで教授が期末課題に関する情報(いつまでに何をするか)を記した配布物を生徒に渡したという設定で、その内容を正しく理解できるか把握した問題。

CEFR Can-Do

CEFR A2 レベル

⇒手紙、パンフレット、新聞の短い事件記事のような、簡潔なテキストの中から特定の情報を取り出すことができる。

この能力に焦点をあて、学生が必要とする、必要な情報を見つけ理解する能力を測定している。

思考力

判断力

表現力

※受信技能により

28 Reading 問題例 ~CEFR A2 レベル~

文章

At the end of class, your professor hands out instructions for a final project.

Intermediate French, Spring Term

Professor Amelie Girard
Final Project Instructions

The end of the term is quickly approaching and you will need to complete a final project. Please follow the instructions below:

- 1) On Friday, April 11, meet with me to talk about your story idea.
- 2) Once I approve your idea, write a 500-word story about your family. The story must be in French.
- 3) Put your finished story in my box by Monday, April 21. My box is located just outside of my office.
- 4) On Monday, April 28, I will return your graded papers to you.
- 5) On Wednesday, April 30, all students will read their stories to the class and we will have a class discussion about families. Make sure you read the revised version of the story, taking my comments into account.

Attention!

If you finish your assignment late, you will lose 20 points. Be sure to pay attention to grammar, and as always, have fun!

問題

When do you need to give your professor your story?

- April 11.
- April 21.
- April 28.
- April 30.

What should you do before you begin to write?

- Write a list of questions about your family.
- Talk to your professor about your idea.
- Discuss your story with the class.
- Review the chapter on French grammar.

29 Writing 問題構成

バリエーション豊かな出題で多角的に「書く力」を測定

項目記入，Eメール作成，意見展開文など様々なタイプの出題で，書く力を測定。Eメールを書いたり，あるデータについて意見を述べるなど，学生自身が英語を使って書く実際の場面を想定した出題。

パート		出題内容	問題数	試験時間	採点基準
1	項目記入問題 Completing a form	与えられた英文と状況設定を読み，条件に合った内容を書く問題	1題 小問4問	4分	○条件に合った内容が書けているか
2	Eメール作成問題 Writing an e-mail	与えられた状況設定を読み，条件にあったEメールを書く問題	3問	21分	○条件に合ったEメールが書けているか
3	意見展開問題 Writing an essay	○統計データなどに対して，自分の意見やその意見の背景となる理由などを書く問題 ○与えられたトピックに対して，他者の考えなどを取り入れながら意見を展開する問題	2問	40分	○自分の意見が書けているか ○自分の意見をサポートする理由が書けているか ○言語運用能力，論理の一貫性

30 Writing 問題例 ~リアル × タスク × CEFR~

リアル × タスク

〈データや外部からの意見をもとに文章を書く場面を想定した出題〉

大学のクラスで教授が実社会の問題点、ごみの量とリサイクルの状況を表すデータについて短い要約を学生に書かせるという設定で、外部からのデータなどを把握し文章として表すことができるかを測定する問題。

CEFR Can-Do

CEFR B1 レベル

⇒自分の専門範囲の日常的もしくは非日常的な事柄について、集めた事実情報をもとに、総括し、報告できる。

この能力に焦点をあて、データなどを使って文章を書くことができるか測定している。

思考力

判断力

表現力

31 Writing 問題例 ~CEFR B1 レベル~

課題

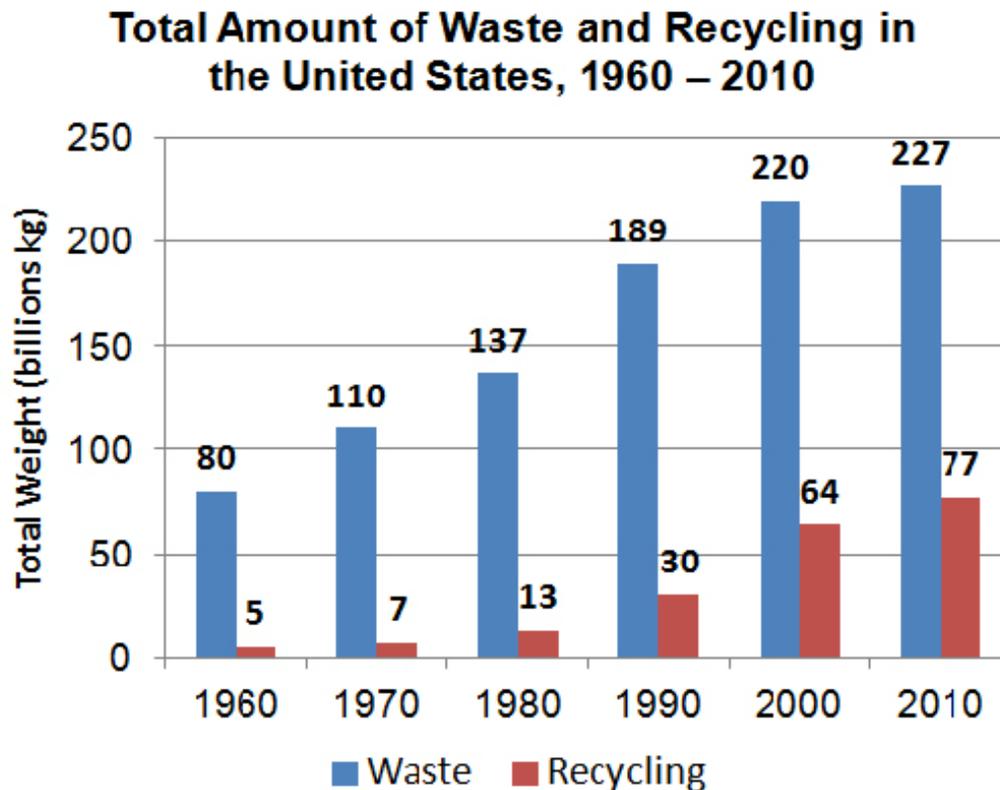
You are taking an environmental science class. The professor is giving a lecture about waste and recycling habits.

For homework, your professor asks you to look at a graph the text book, then write about what the graph shows and compare it to your own experience.

Write a short essay about the graph.

Describe the main points of the graph.

Compare the information on the graph to your own experience.



この問題の後に、データに示されている**社会問題**に関わるトピックについて、有識者からの意見などを読んだ上、長文を書くというB2レベルの問題が出る。

English Profileによる「English Vocabulary Profile」に準拠し、
語彙においてもCEFRの各レベルに合わせた設定となっている。

English Vocabulary Profile
Preview version

British English (D, J, K) American English (D, J, K)

Choose level:

- A1
- A1-A2
- A1-B1
- A1-B2
- A1-C1
- A1-C2
- A2 only
- B1 only
- B2 only
- C1 only
- C2 only

Browse A-Z
OR
Enter a word or phrase

ADVANCED SEARCH

Hide culturally sensitive words

Search

English Profile Home
About English Vocabulary Profile
Word of the Week
Help
Feedback

Search results for A1-C2 (1077 matches)

Number of results per page: 40

1 2 3 ... 27 > Page 1 of 27

Core results:

- dad noun **A1**
- daily adjective EVERY DAY **A2**
- daily life **B1**
- daily adverb **A2**
- dairy adjective **B2**
- damage noun **B1**
- damage verb **B1**
- damaged adjective **B1**
- damn exclamation **B1**
- damp adjective **B2**
- dance verb **A1**
- dance noun MOVING **A1**
- dance noun OCCASION **A2**
- dance noun ACTIVITY **A2**
- dance noun STEPS **B1**
- dancer noun **A2**
- dancing noun **A1**
- danger noun POSSIBILITY OF HARM **A2**
- danger noun THREAT **B1**
- dangerous adjective **A2**
- dangerously adverb **B1**
- dare (to) do sth **B2**
- dare sb to do sth **C1**
- How dare she/you, etc. **C1**
- Don't you dare **C2**

※English Vocabulary Profileは単なる単語リストではなく、
熟語やその用例などのデータも含んでいます。

出典 : English Profile
<http://vocabularypreview.englishprofile.org/>

33 学校・エリア・生徒への英語教育関連の支援

全国の学校・高校生・自治体への様々な支援を実施

4技能・総合的な
英語力育成の活性化

高校教員
向け

- 英語指導力向上研究会
 - ・毎年全国47都道府県で約2,000名を動員

自治体
向け

- 英語指導改善研究会（文部科学省後援）
 - ・全国の教育委員会・指導主事対象
 - ・2012年度より計4回を実施

4技能・総合的な
学習のアドバイス
(入試環境変化の理解含む)

高校生
向け

- GTEC CBT体験&説明会
 - ・Go Global Japan Expo 2014 参加
 - ・全国での説明会を2015年開催予定

34 学校へのサポート事例 ~GTEC通信~

全国の高等学校・中学校・自治体の英語教育に関する先進的な取り組み事例 ~2003年度から12年間の82事例~

※2014年11月現在

V6182	高岡高校における英語指導の変革とスーパーグローバルハイスクールの取組 NEW	V6166	学力と意欲向上の力書よ、到達目標の共有化
V6181	工業高校の生徒の実態にあわせた「実技教科」としての英語指導 NEW	V6165	入試の先まで役立つ力を！進学校の英語授業改革
V6180	地域が一体となった小中高連携の取り組み~七尾市における英語力把握と指導改善~	V6164	「正解を当てる」授業からの脱却
V6178	指導の改善につながる評価を考える ~can-do形式の到達目標をいかに作り、活用するか~	V6163	「訳す=内容理解」?
V6176	これからの英語教育を考える ~CAN-DO型到達目標(広島モデル版)を軸にした英語指導法~	V6162	2009年度「GTEC英語力向上校」「GTEC英語力優秀校」
V6175	「表現したい」という生徒の意欲を引き出す英語指導	V6161	理系こそ英語 PART2
V6174	評価問題から指導を考える ~授業とテストの一体化をめざして~	V6160	GTECライティング答案表彰制度 結果レポート
V6173	九州・沖縄地区「これからの英語指導を考える会」~英語力を強化する指導改善の取り組み~	V6159	進む大学改革
V6171	読み方指導と、定着のためのトレーニングで英語力を伸ばす	V6158	生徒があきらめない文法指導
V6170	活動型授業で、受験にも通用する確かな学力を	V6157	教科書に出てくる語彙の定着
V6169	学校独自can-doリストを軸にした、指導と評価の一体化	V6156	「自分から学習」を育てる評価の工夫
V6168	学校・英語科が一丸となって取り組む福岡高校の授業改善	V6155	「自分から学習」を育てる授業
V6167	「英語による授業」への挑戦		(後略)

参照 : GTECサイト内 <http://gtec.for-students.jp/gtecmag/gtecmag.htm>

35 CEFR との関連づけ調査①

実際のGTEC CBT受験者を対象とした、
CEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証。

GTEC CBT 内容的な関連性

GTEC CBTは、開発の当初よりCEFRを意識して作られている。GTEC CBTは、CEFRの各レベルを記述している言語活動を反映させようとしているが、これらの具体性はテスト項目の作成には十分とは言えない。

そのため、KSA (knowledge, skills, abilities の略) と呼ばれる内部規準リストによって、テスト項目で測定する力、タスク、素材やレベルを技能領域別に具体的に規定している。さらに、このKSAリストは、「日常的な言語使用場面」と「アカデミックな言語使用場面」の両観点をも含んでいる。

このKSAリストに基づいたテスト開発設計書にしたがってテスト項目の作成を行っている。こうして作られたテスト項目は、パイロットテストを通した数値データをもとに、社内外のテスト専門家による妥当性や信頼性の検証を経て完成している。

KSAリストの一例

※Reading KSAs (tasks)

- 1) Comprehend the main idea
- 2) Comprehend details
- 3) Skim for the main idea
- 4) Scan for specific/relevant details
- 5) Evaluating a text for productive use
- 6) Follow the logic/argument of a passage
- 7) Determine the author's purpose for writing
- 8) Make inferences about the author's meaning
- 9) Identify the author's opinion among various statements/opinions
- 10) Guess the meaning of vocabulary and phrases/idioms in context

CEFRレベルとの関連づけ研究の概要① (定量的アプローチ)

GTEC CBT テスト結果の関連性

CEFRレベルの算出は「英語CAN-DOアンケート」への回答結果をもとにした。

「英語CAN-DOアンケート」の各アンケート項目は、CEFRのリーディング・リスニング・ライティング・スピーキング（発表）・スピーキング（やりとり）の各CEFRレベルA1～C2に対応したcan-do 記述をベースにしつつ、さらにA1を3つに、またA2～B2を各2つに、細分化した文部科学省・科学研究費助成事業のCEFR-J 研究開発チーム（代表：投野由紀夫）の研究成果を用いている。

「英語CAN-DOアンケート」で用いた
CEFRレベル段階数

-
- C2レベル：1段階
 - C1レベル：1段階
 - B2レベル：B2.1, B2.2の2段階
(.1よりも.2が高いレベル)
 - B1レベル：B1.1, B1.2の2段階
(.1よりも.2が高いレベル)
 - A2レベル：A2.1, A2.2の2段階
(.1よりも.2が高いレベル)
 - A1レベル：A1.1, A1.2, A1.3の3段階
(.1よりも.2が, .2よりも.3が高いレベル)

37 CEFR との関連づけ調査③

CEFRレベルとの関連づけ研究の概要①（定量的アプローチ）

GTEC CBT テスト結果の関連性

「英語CAN-DOアンケート」への各回答のうち主な対象者がアンケート内容の活動を実際に経験する度合いの高い「大学生」である状況に鑑み、「経験あり。できる」を該当の言語活動が「できる (can)」回答とみなし、他の3つを該当の言語活動が「できない (can't)」回答とみなした。アンケート回答者のGTEC CBTスコアが高まるにつれて、「できない (can't)」の回答割合が減少していき、一方で「できる (can)」の回答割合が増加する。そこで、アンケート回答の「できる (can)」の割合が60%(注1)を上回っているCEFRレベルを抽出した。

アンケート質問の一例
※Reading A2.2

.....
簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。

- 1 経験あり。できる
- 2 経験あり。できない
- 3 経験なし。できると思う
- 4 経験なし。できないと思う

*注1) 60%というcut point の設定については、これまでの様々な調査結果から「日本人学習者は自分の能力を過小評価する傾向にあること」、「より確実なcan-do項目とするためには、5割よりも高い位置にcut pointを設定した方がよいこと」ということがわかっており、60%を選択した。

38 CEFR との関連づけ調査④

CEFRレベルとの関連づけ研究の概要①（定量的アプローチ）

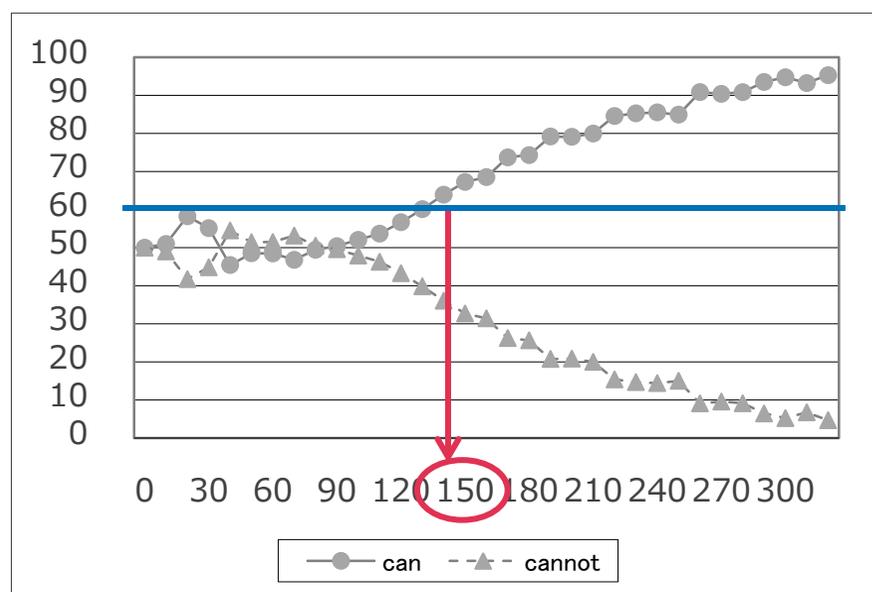
GTEC CBT テスト結果の関連性

GTEC CBTのTOTALスコア帯に対応して、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング（発表）・スピーキング（やりとり）の5つの技能・領域に関するCEFRレベルのアンケート回答結果が導かれる。

そこで技能・領域のそれぞれについて、「できる（can）」の割合が60%を比較的に安定的に超えているかを検証した。

その5つの技能・領域の抽出結果から、GTEC CBTのTOTALスコア帯に対応したCEFRレベルを総合的に判定し結果を最終的に導き出している。

各技能において検証する場合のイメージ



また、これまでに記述した定量的なアプローチに加え、『ブックマーク法』を活用し「定性的アプローチ」での関連づけも行う。